

⑥公開特許公報(A)

昭61-199807

⑦Int.Cl.
A 45 D 34/04識別記号
6671-3B

⑧公開 昭和61年(1986)9月4日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑨発明の名称 繊維材入りマスク用容器

⑩特願 昭60-38870

⑪出願 昭60(1985)3月1日

⑫発明者 奥田吉則 滋賀県野洲郡野洲町大字上屋八八番地 マックスファクタ
ー株式会社滋賀工場内

⑬発明者 益山勝三 東京都府中市西府町4-25-40

⑭出願人 マックスファクター株式会社 東京都渋谷区神南1丁目12番13号

⑮出願人 東京バーツ株式会社 東京都府中市日新町1丁目2番8号

⑯代理人 弁理士 寺田正 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

繊維材入りマスク用容器

2. 特許請求の範囲

1. 繊維材入りマスクを収納する容器本体と、この容器本体の口部に冠着する蓋とからなり、この蓋に、容器本体内へ押びる軸体と、この軸体先端において、端横方向に伸びて繊維材を嵌入保持する溝とからなる蓋布具を設け、さらに容器本体の口部に、蓋布具を引出す様に、容器本体内部側が大径のテーパ状表面を有し、蓋布具外周に付着したマスクを拭拭するとともに、溝から一部突出した繊維材を溝内に押込む拭拭バッキン体を設けたことを特徴とする繊維材入りマスク用容器。

2. 拭拭バッキン体を薄板材より形成し、蓋布具差込み時には容器本体内部側が小径のテーパ状であり、蓋布具引出し時に反転して容器本体内部側が大径のテーパ状表面が形成されるようにした特許請求の範囲第1項記載の構

繊材入りマスク用容器。

3. 拭拭バッキン体の容器本体内部側表面をテーパ状に形成した特許請求の範囲第1項記載の繊維材入りマスク用容器。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は纖毛、合成纖維片等を混入させた繊維材入りマスクについて使用する容器に関するもの。

〔発明の技術〕

従来は繊維材入りマスクに、通常の繊維材を混入させないマスクの容器をそのまま使用していた。すなわち容器本体と蓋とからなり、蓋に刷子状、櫛状あるいは構造の蓋布具を取り付け、容器本体の口部に拭拭バッキン体を設けた容器を用いていた。

〔発明が解決しようとする問題〕

この容器を繊維材入りマスクについて用いると、刷子状蓋布具では、繊維材が付着したとき、その方向が不定となるので散布しにくい。

溝状漉布具では、歯齒の側面に繊維材が方向を不定にして付着するので扱いにくい。溝状漉布具では、溝内に方向を揃えて繊維材が留められるので漉布しやすいが、漉布具を容器本体から引出すとき、容器本体内で溝に一部嵌合して付着した繊維材が口部の払拭バッキン体で拭い取られてしまい、極めて少量の繊維材しか取出すことができない。

そこで本発明は、この漉布しやすい溝状漉布具を用い、溝内に多量の繊維材を含ませて取出すことができるような容器を実現することを目的としてなされたものである。

(問題点を解決するための手段)

すなわち本発明は、溝状漉布具と、容器本体内部側が大径のテーパ状表面を有する払拭バッキン体とを組合せて使用するよう構成したものである。

(作用)

したがつて本発明の容器では、漉布具を引出す際、払拭バッキン体は、溝に一部嵌入し、一

では大小2種類の溝を形成しているが、1種類でも、3種類以上を形成してもよく、また溝は正確に横方向に伸びるものはか斜方向等略横方向に伸びるものであればよい。さらに溝の断面形状も四角形状に限らず、三角波状等任意の形状とすることができます。

容器本体11の口部には払拭バッキン体18が設けられ、漉布具16を引出す際、漉布具外周に付着したマスカラ12を払拭する。この払拭バッキン体18はゴム等の薄板材より形成され、漉布具16差込み時には、第3図に示すように、容器本体11内部側が小径のテーパ状であり、漉布具16引出し時には、第1図に示すように、反転して容器本体11内部側が大径のテーパ状表面19が形成される。

なおこの払拭バッキン体18に代えて、第4図に示す払拭バッキン体18'のように、容器本体11内部側が大径のテーパ状表面19'となり、反転しないものを用いてもよい。

(発明の効果)

部突出した状態で付着している繊維材を拭い取るのでなく、反対にそのテーパ状表面で溝内に押込む作用をし、多量の繊維材を取出すことができる。

(実施例)

以下本発明を図示する実施例について説明する。第1図に示す容器10において、容器本体11は内部に繊維材入りマスカラ12を収納し、蓋13はこの容器本体11の口部に覆着する。

蓋13には軸体14および溝15からなる漉布具16が取付けられている。軸体14は丸棒構円棒等の棒状体よりなり、蓋13から容器本体11内に伸びる。溝15は、第2図に示すように、軸体14の先端の正面および背面に、横方向に伸びるように形成されている。この溝15内にはマスカラ12を留めることができ、また、溝15の内部にマスカラ12中の繊維材17を嵌入保持することができる。さらにこの溝15は軸体14の正面と背面とで大きさが異なり、まつげに漉布する際両者を使いわけ溝長の調節をすることができる。なおこの例

この容器10は以上の構成であるから、漉布具16を容器本体11内に差込み、マスカラ12を溝15に付着させた後、引出すると、払拭バッキン体18は、漉布具16外周に付着したマスカラ12を払拭するとともに、溝15から一部突出した状態で付着している繊維材17を、そのテーパ状表面19で溝15内に押込む。したがつて引出した漉布具16の溝15内には多量の繊維材17が嵌入保持され、しかもこの繊維材17は溝15に沿つて向方向に張つているので、容易かつ良好によつて漉布することができる。

さらに上記払拭部材18のように反転するものでは、薄板材を用い、しなやかに漉布具に接するようにすることができる、漉布具の出入の際の感触を良好なものとすることができる。

すなわち本発明の繊維材入りマスカラ用容器では、溝状漉布具の扱い易さを生しつつ、さらに払拭バッキン体にテーパ状表面を設け、この箇で繊維材を拭い取るのでなく、溝内に押込む作用をさせ、繊維材を良好に取出し、有効に

使用することが可能となる。

4. 製面の簡単な説明

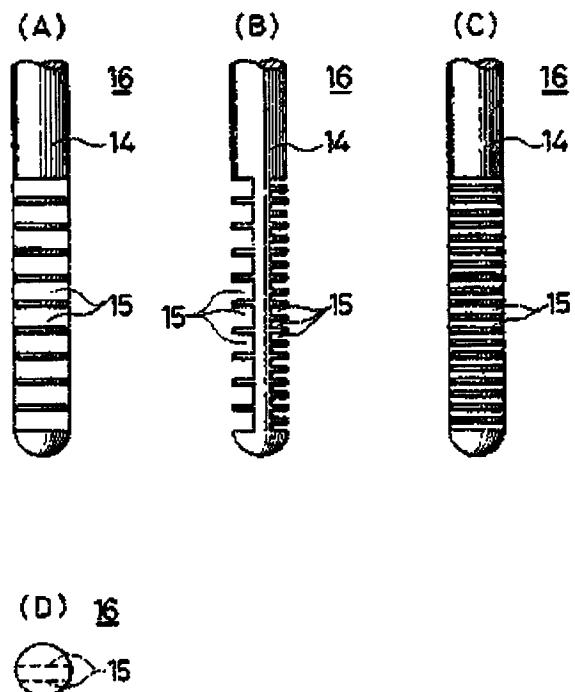
第1図は本発明の一実施例の被布具引出し時を示す正断面図であり、第2図は側面図であり、被布具の正面図、右側面図、背面図、底面図であり、第3図は同実施例の被布具差込み時を示す正断面図である。第4図は他の抜拭パッキン体を用いた例を示す正断面図である。

10 ……繊維材入りマスカラ用容器、 11 ……容器本体、 12 ……繊維材入りマスカラ、 13 ……蓋、
14 ……軸体、 15 ……側、 16 ……被布具、 17
……繊維材、 18, 18' ……抜拭パッキン体、 19,
19' ……テーパ状表面。

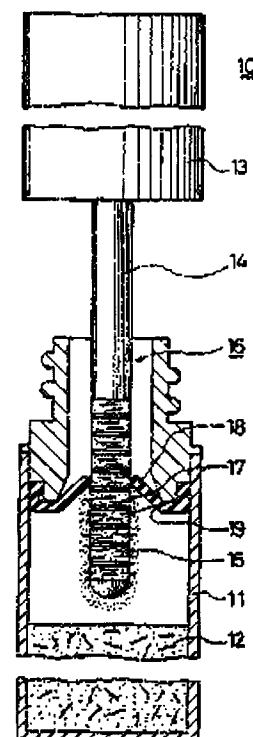
特許出願人
マクスファタマー株式会社
東京ベース株式会社

代理人
弁理士 寺田 正外1名

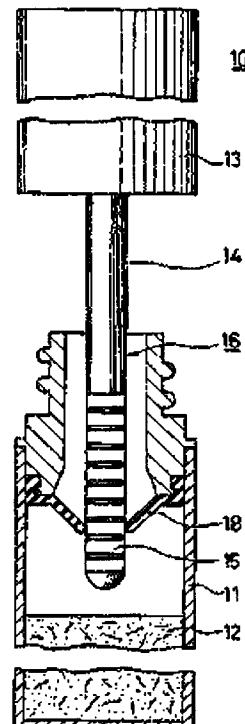
第2図



第1図



第3図



第4図

